



NAKAHARA-LAB.net

立教大学 経営学部 中原淳研究室

そのとき学びに何が起こったか

—高校生の学習時間に焦点をあてて—

新型コロナ感染拡大による 学習環境の変化に関する調査報告会

2020. 6. 14

※この資料の「引用」は下記の引用表示をお願いします。

高崎美佐・村松灯・田中智輝・中原淳(2020)「立教大学経営学部中原淳研究室 そのとき学びに何が起こったか:高校生の学習時間に焦点をあてて—新型コロナ感染拡大による学習環境の変化に関する調査報告会. 当日配布資料」[http://www.nakahara-](http://www.nakahara-lab.net/blog/wp-content/uploads/2020/06/online_manabitomeruna2020-1.pdf)

[lab.net/blog/wp-content/uploads/2020/06/online_manabitomeruna2020-1.pdf](http://www.nakahara-lab.net/blog/wp-content/uploads/2020/06/online_manabitomeruna2020-1.pdf)

ご参加の皆さまへ

- 回線トラブル等でシンポジウムが中断する可能性があります。再起動したのち再開いたしますので、少々お待ちください。
- 本日のシンポジウムはウェビナー形式で行います。
- 参加者の皆さまのマイクはミュート、ビデオオフに設定させていただきます。
- **ご質問やコメントは「チャット」にお寄せください。** → 
- 参加者の皆さまの回線トラブル・機材トラブル等には対応いたしかねます。ご了承ください。
- 本日のシンポジウムは、運営スタッフにより録画させていただきます。また、参加者の皆さまによる録画・録音はご遠慮いただきますよう、お願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします！



学びを支えるプロジェクト 調査概要

調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう休校措置において、子どもの学びや生活、親や家庭の様子、教員や支援者の仕事がどのように変容しているのかを明らかにすること。

質問紙調査

高校生 対象 (n=760)

小・中・高校生の子を持つ親 対象 (n=2200)

ヒアリング 調査

中学生・高校生 対象 (n=10)

教員〔中学校・高校〕 対象 (n=6)

教育系NPO法人スタッフ 対象 (n=5)

学びを支えるプロジェクト 調査概要

調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう休校措置において、子どもの学びや生活、親や家庭の様子、教員や支援者の仕事がどのように変容しているのかを明らかにすること。

質問紙調査

高校生 対象 (n=760)

小・中・高校生の子を持つ親 対象 (n=2200)

ヒアリング 調査

中学生・高校生 対象 (n=10)

教員〔中学校・高校〕 対象 (n=6)

教育系NPO法人スタッフ 対象 (n=5)

本日は高校生の学習時間におもに焦点をあててご報告いたします

CONTENTS

□ オープニング

□ 第1部 調査報告

——データから見た「そのとき」 休校中の学習と生活

立教大学 田中智輝・高崎美佐・村松灯

□ 第2部 対談

——対話がつむぐ「そのとき」と「これから」

立教大学
認定NPO法人カタリバ
都立日野台高等学校
N高等学校

中原淳
今村久美・加賀大資
佐々木宏
片野優

□ クロージング



ご質問やコメントは、随時「チャット」まで！

パソコンからアクセスされている方は**ふきだしマーク**を選択



携帯からアクセスされている方は**「詳細」ボタン**から選択



第1部 調査報告

データから見た「そのとき」
－休校中の学びと生活－



質問紙調査の概要

1. 調査時期：5月1日～5月6日
2. 方法：インターネット調査モニターに対するインターネット調査
3. 調査対象者
家族と東京、神奈川、千葉、埼玉のいずれかの都県で居住している高校1～3年生のWeb調査モニター 760名
4. 調査内容

自分自身のこと

＜普段のこと＞

1. 学習時間
2. 学習動機

＜休校中のこと＞

1. 生活の変化
2. 自分の変化

学校のこと

＜普段のこと＞

1. 学校への適応
2. 学校のICT状況

＜休校中のこと＞

1. 学校の取り組み
2. 教員とのコミュニケーション

他者のこと

＜普段のこと＞

1. 親との関わり

＜休校中のこと＞

1. 親との関わり
2. 友人との関わり



ヒアリング調査の概要

※中高生調査・教員調査ともに、
ビデオ会議システム（zoom）を使用した調査

中高生調査

実施時期 2020.4.21～4.24
時間 30～45分

回答者

Aさん（中1男子） 千葉県
Bさん（中1女子） 東京都
Cさん（中1女子） 東京都
Dさん（中3女子） 東京都
Eさん（中3女子） 東京都
Fさん（中3女子） 東京都
Gさん（高1男子） 東京都
Hさん（高2女子） 東京都
Iさん（高3女子） 東京都
Jさん（高3女子） 東京都

教員調査

実施時期 2020.4.13～5.7
時間 30～45分

回答者

Kさん（公立中学校 教諭）
Lさん（公立中学校 教諭）
Mさん（私立中高一貫 主事）
Nさん（私立中高一貫 教頭）
Oさん（都立高校 教諭）
Pさん（都立高校定時制課程
学年主任）

※所属は調査当時



この調査は、中学生や高校生に何が起
こっていたのかを把握するために、当事
者から回答を得ています。

彼らが休校中どのように過ごしてきたの
か、その実態を彼らに直接聞いて把握す
ることで、Withコロナ、Afterコロナの学
びに活用したいと考えています。

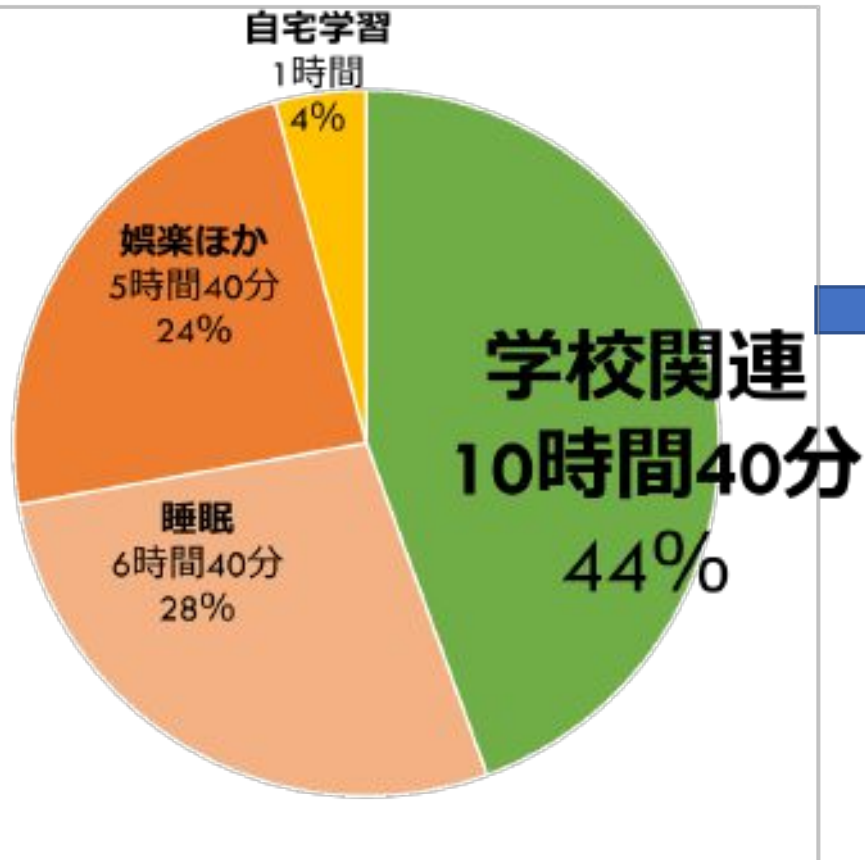
本日の報告内容は、中学生・高校生の声
です。

コロナ関連の動向を振り返ると・・・

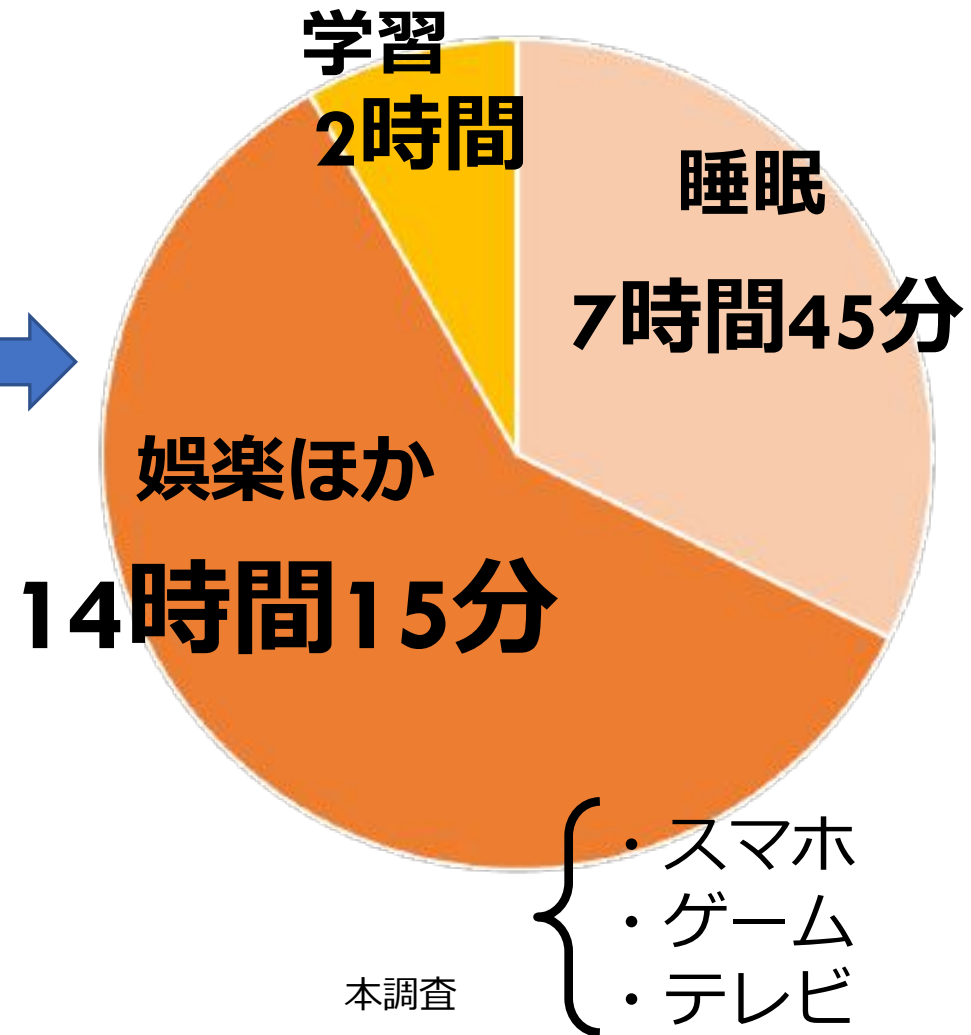
- 2/27 安倍総理、一斉休校要請
- 2/28 文科省、各学校に一斉休校（3/2～）の通達
- 3/11 WHO「パンデミック」宣言
- 4/1 東京都、都立学校の休校を5/6まで延長
- 4/7 安倍総理、1都7県を対象とする緊急事態宣言を発令
- 4/9 東京都、都立学校の休校を緊急事態宣言の解除まで延長
- 4/16 安倍総理、緊急事態宣言の対象地域を全国に拡大
→ 全国で5/31まで休校を延長する動き
- 4/28 文科大臣「9月入学、確かにメリットある」と発言
→ 政府で具体的な検討作業が始まる
- 5/14 安倍総理、39県で緊急事態宣言を解除
- 5/21 京都・大阪・兵庫で緊急事態宣言を解除
- 5/25 緊急事態宣言を全面解除

高校生の生活実態の変化

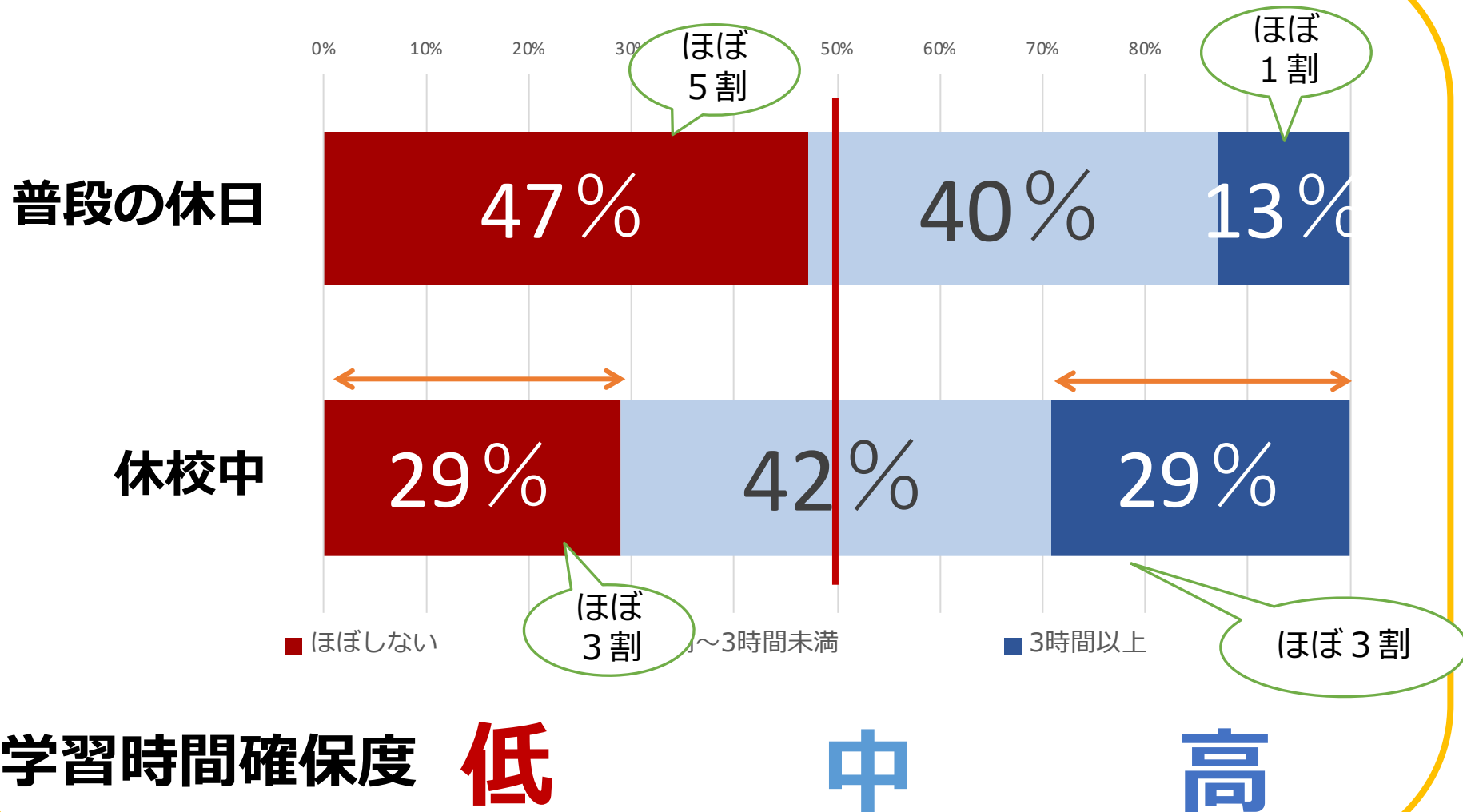
【休校前】



【休校中】



休校措置中の高校生の「実態：学習時間」



学習時間を確保できている人とできていない人の差が開いている

「学びをとめない＝学習時間の確保」でいいの？ より高次の学び実現は大切

2

学習した内容を
理解する

4

新たな学習へ！
学び続ける

3

自分なりの
意見を持つ
学習した内容が
自分のものになる

1

学習時間を確保する
学習習慣をもつ



でもやっぱり「学習時間の確保」は大事な一歩！
今日の報告では「学習時間の確保」に焦点を！

はじめに
学校の取り組みと生徒の学習
時間について
確認していきましょう

示す結果はすべて回答者（高校生）の認識

休校中の学校の取り組み

休校中の学習対応状況

具体的な取り組み	実施状況
• 学校から課題（提出しなければならないもの）が出された	93.6%
• 学校から課題（提出の必要はないが、やった方がよいもの）が示された	83.2%
• 受講しなければならない授業が学校から配信された	64.9%
• 受講は 任意 だが、授業が学校から配信された	58.2%

休校前の I C T活用状況

学校のICT化状況

具体的な取り組み	実施状況
1. 一人一台P C、タブレット Bring your own device	52.5%
2. デジタルの学習履歴、ポート フォリオ管理システム	29.7%
3. (2 +) 学習アプリ	32.5%
4. 学校関係者用デジタル連絡 網	57.8%
5. デジタルコンテンツの活用	20.9%

Q. 休校中（4月以降）に学習
時間が確保できていないの
は、公立・私立 どちらの生
徒？

- ①公立高校
- ②私立高校
- ③変わらない



A. ③変わらない

休校中の学習時間の平均



休校中の生徒の学習時間に公立と私立で差（※）は見られませんでした。公立・私立の進学校の割合は変わりません

※統計的な有意差 ($p < .05$)

Q. 休校中（4月以降）に学習
時間を確保できていたのは、
どちらの学校に通う生徒？

- ① もともと授業でデジタル
コンテンツを活用してい
た学校
- ② 活用していなかった学校
- ③ 変わらない



A. ③変わらない

休校中の学習時間

活用していた
(n=159)

2時間7分

活用して
いなかった
(n=601)

2時間20分

全体

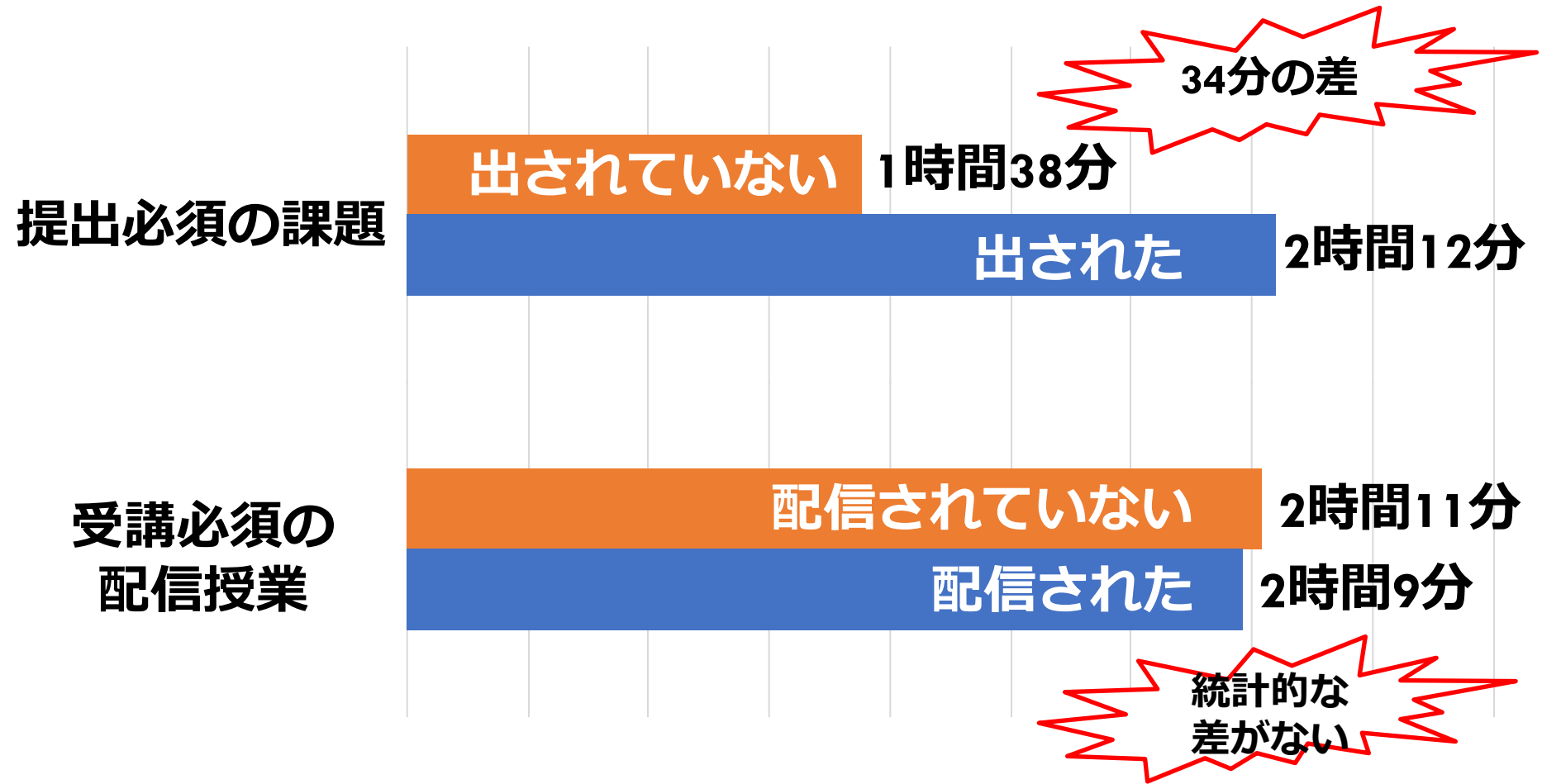
2時間9分

普段（休校前）からデジタルコンテンツが授業に活用されていたことと休校中の学習時間は**関連がありません**でした

では・・・
学習時間の差を
生んだ取り組みは？

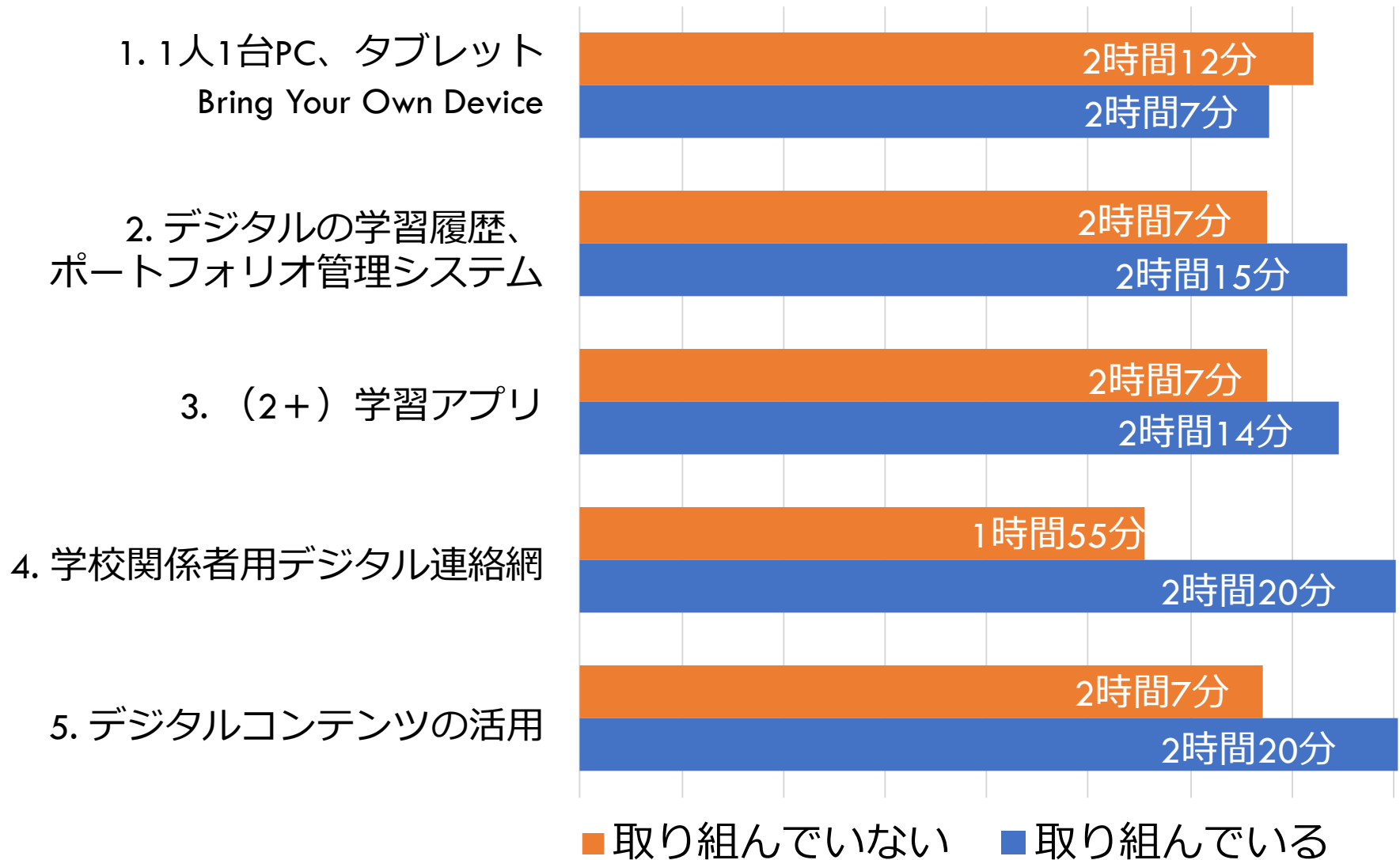


学校の休校中の取り組みと学習時間の関係

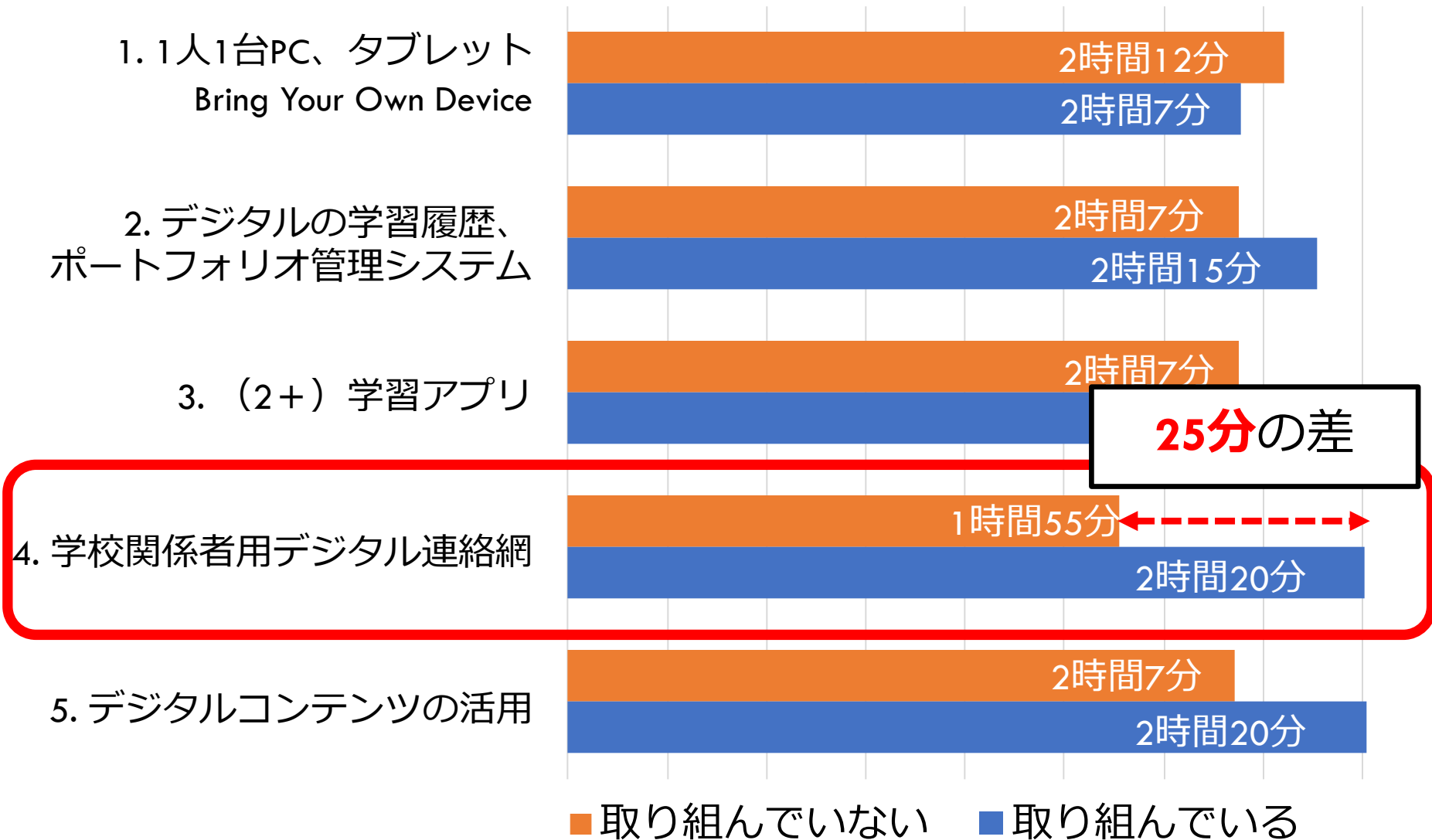


高度なオンライン支援も学習の質には影響を与えるかもしれないが、学習時間の確保には「やることを明確にすること」まず大切である

学校のICT化状況と休校中の学習時間

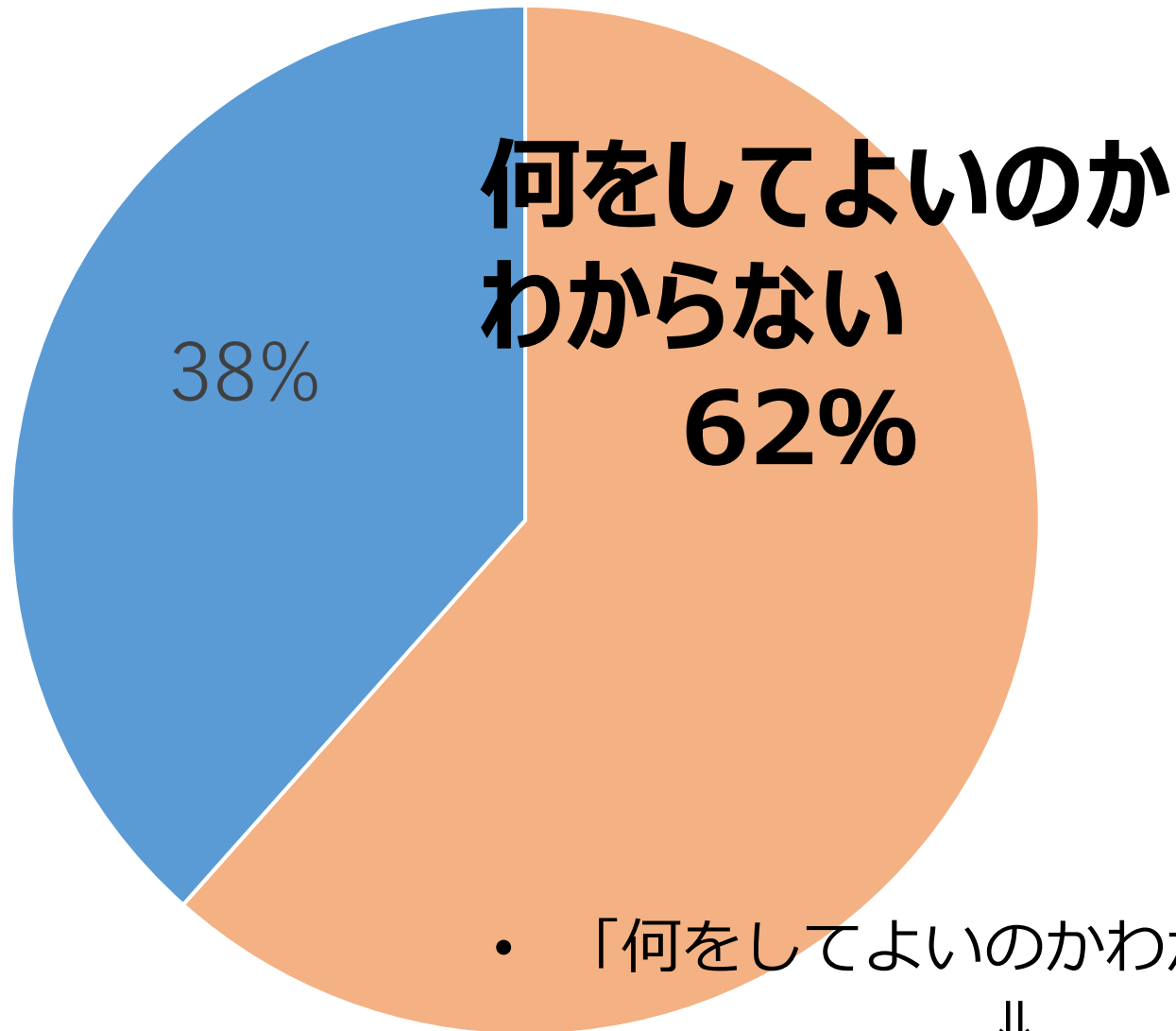


学校のICT化状況と休校中の学習時間



学校からの情報発信が学習時間の確保に影響している

学校が「発信すること」の役割 それがなければ・・・

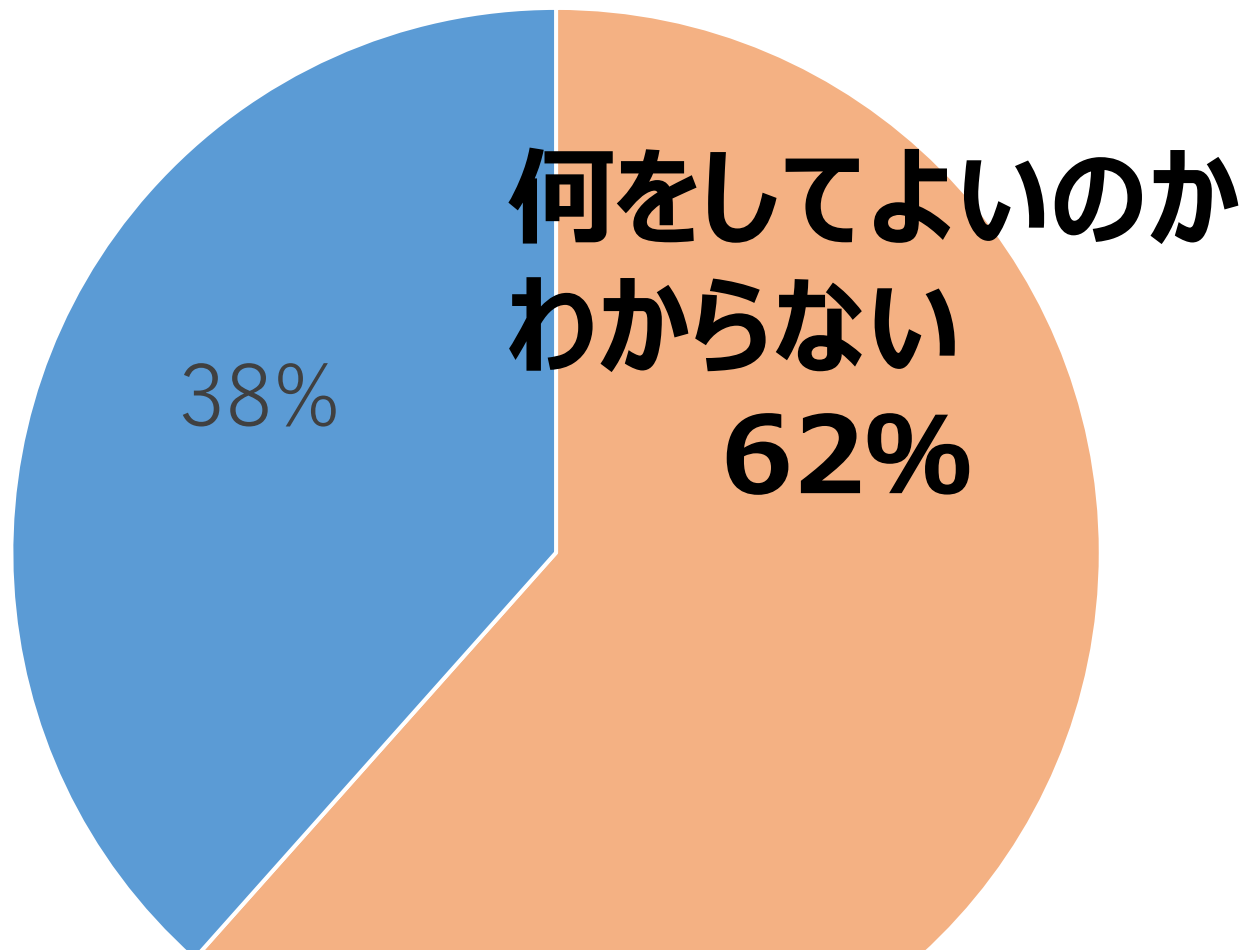


- 「何をしてよいのかわからない」



- とりあえずゲーム、スマホ

学校が「発信すること」の役割



学校からメッセージを発すること、
生徒にいち早く働きかけることが大事！

でも、ヒアリング調査ではこんな声も・・・

非常事態への対応において、特定の教員に業務が集中する一方、指示が出るまでひたすら待機という教員もいた。

(高校教諭/中学校教諭)



状況の変化に応じて教育委員会の方針もたびたび変更されるなか、多くの教員には方針が確定するまでは待つしかないという雰囲気広がっていた。休校が長引くことがわかって、休校中に生徒の学習保障のために何かしようというよりも、学校再開後のことばかりに議論が集中していた。

(高校教諭)



一斉休校の通知がきた当初は、これほどの事態になるとは思ってはおらず、特に部活動に熱心な先生から、どうにか生徒に学校に来させる方法はないかという話も出ていた。

(高校教諭)



「組織マネジメント」の観点から学校のあり方を見直すことが、第2波・第3波への備えにつながるかもしれません

1. 学校生活

楽しんでいる (n=477) 2時間17分

楽しんでいない (n=99) 1時間40分

37分の差

2. 学校での 他者との関係

築けている (n=480) 2時間22分

築けていない (n=84) 1時間25分

57分の差

3. 休校中の教員との コミュニケーション

とれている (n=285) 2時間35分

とれていない (n=475) 1時間54分

41分の差

※ 1, 2 については、「どちらでもない」は、集計から外した。3 は、調査票に中間値を含まない

学校で居場所があることや、友人・教員とのコミュニケーションが取れていることが、休校中の学習時間に影響している。休校してからできるのは、教員が子どもにオンラインオフラインとわずコミュニケーションを行うこと

学びを支えるアイデア～学校編～

オンライン授業やデジタルコンテンツの活用といった、ハードルの高い支援にかぎらず・・・

- ①学校からメッセージ・課題を発すること
- ②学校と子どものつながりを保つ取り組みが重要

→まずは、スモールステップで
できることから始めるのが効果的！



Ex. 電話連絡、オンラインHR、課題の質問受付デスク
(オンライン授業などはより高いレベルの学習の実現には効果的)

情報を発信する＋つながりを切らない
学校と子どもに「回路」を保つ
「縁の切れ目」が「学びの切れ目」！

次に

親の関わりと

学びの状況について

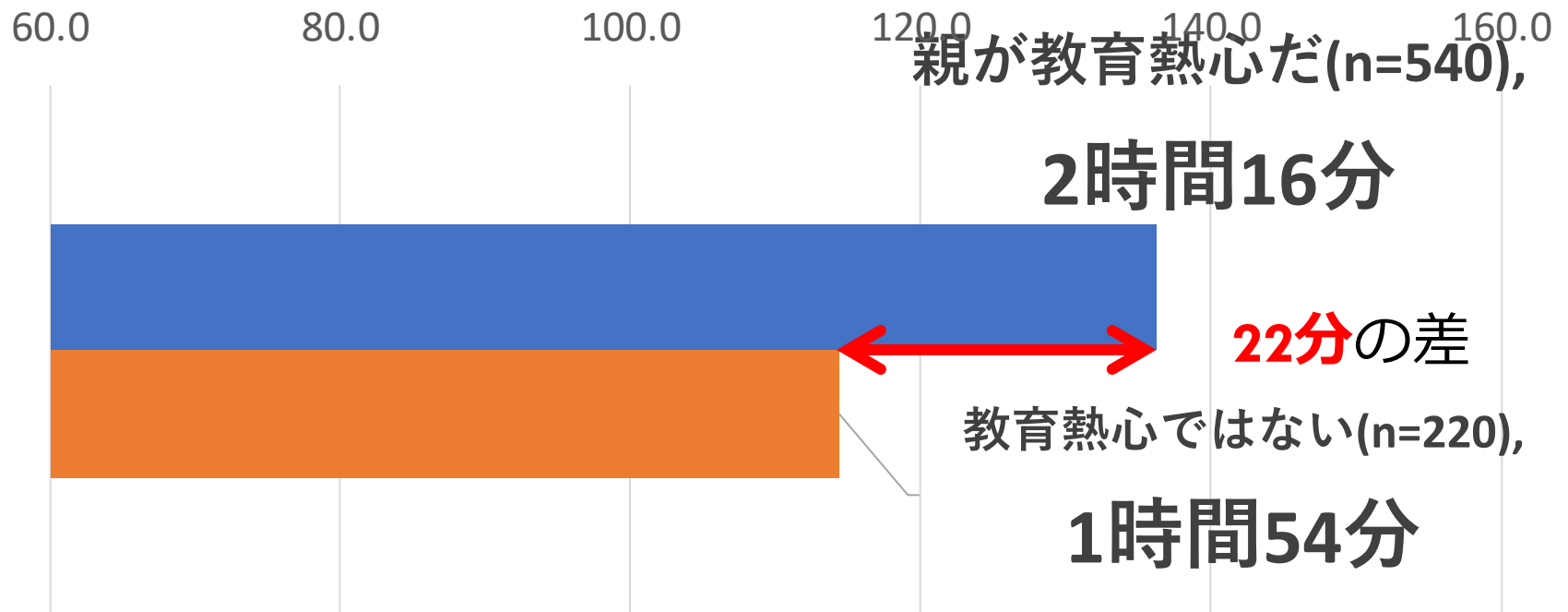
確認していきましょう

家庭での子への関わりと学習時間①

具体的な関わり内容		認識状況(※)	学習時間との 相関
休校前	• 家族に学校の様子を聞かれる	80.1%	*
	• ゲーム機器やスマホの使用について、 家族との約束事がある	50.7%	
	• 家族は、私の進路について意見や希望 を強く言う	59.7%	
	• 家族は、私の教育に熱心だ	71.1%	**
休校中	• 家族にすすめられて新たな教材（通信 教育、塾を含む）をやり始めた。	37.0%	
	• 親に勉強面を気にかけてられている	77.0%	

※回答者である子が「あてはまる」「とてもあてはまる」と回答した割合

親が教育熱心だ



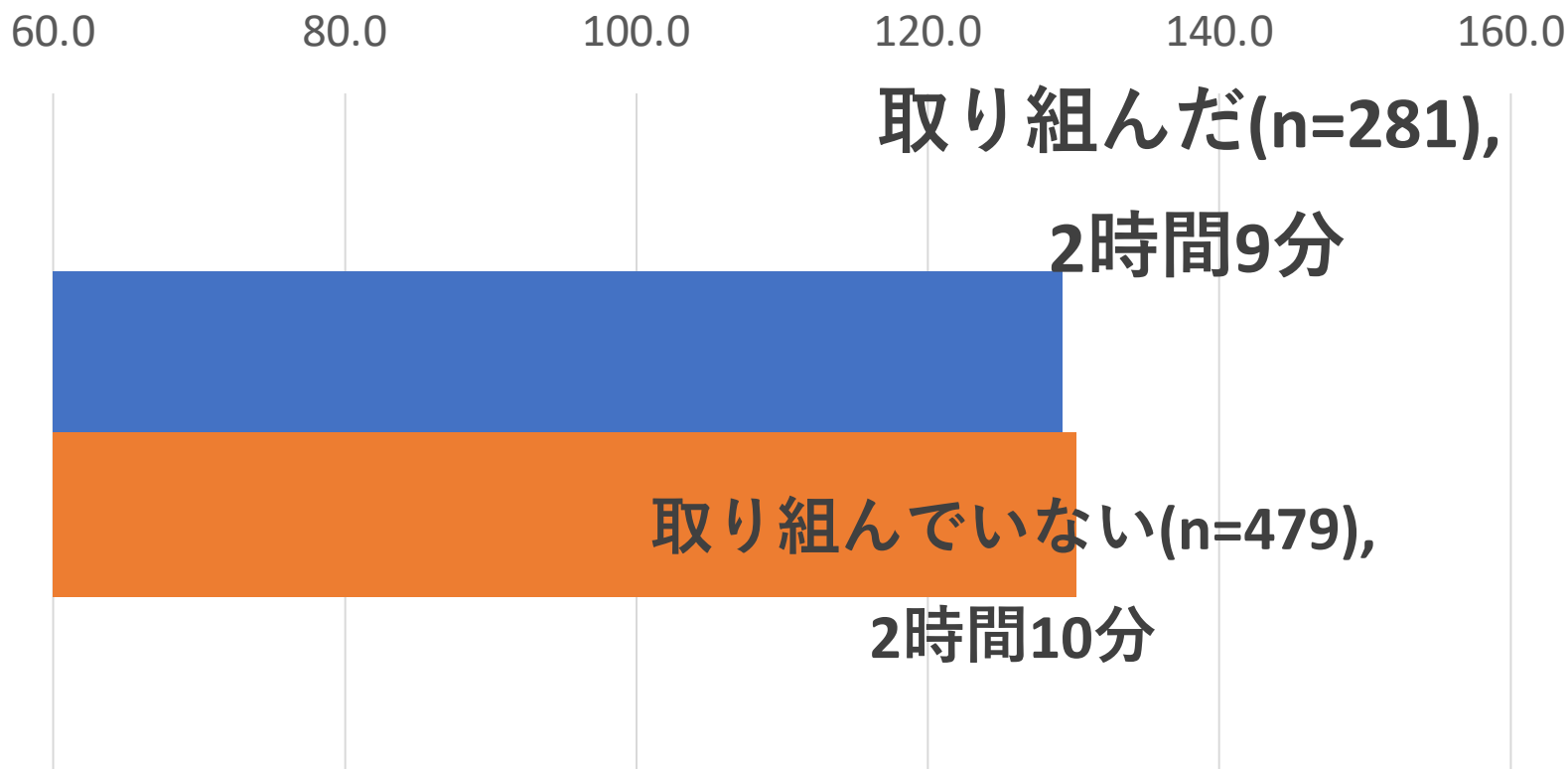
親が教育熱心な場合、
休校中の学習時間が長い

普段の親の関わりと休校中の子の学習時間

普段の親の関わり内容		家でほぼ勉強しない子の割合
• 学校の様子を家族に	聞かれない	39.7%
	聞かれる	26.3%
• ゲーム機器やスマホの使用についての約束	ない	33.6%
	ある	24.4%
• 家族は、私の進路について意見や希望を強く	言わない	32.7%
	言う	26.4%
• 家族は、私の教育に	熱心ではない	38.6%
	熱心だ	25.0%

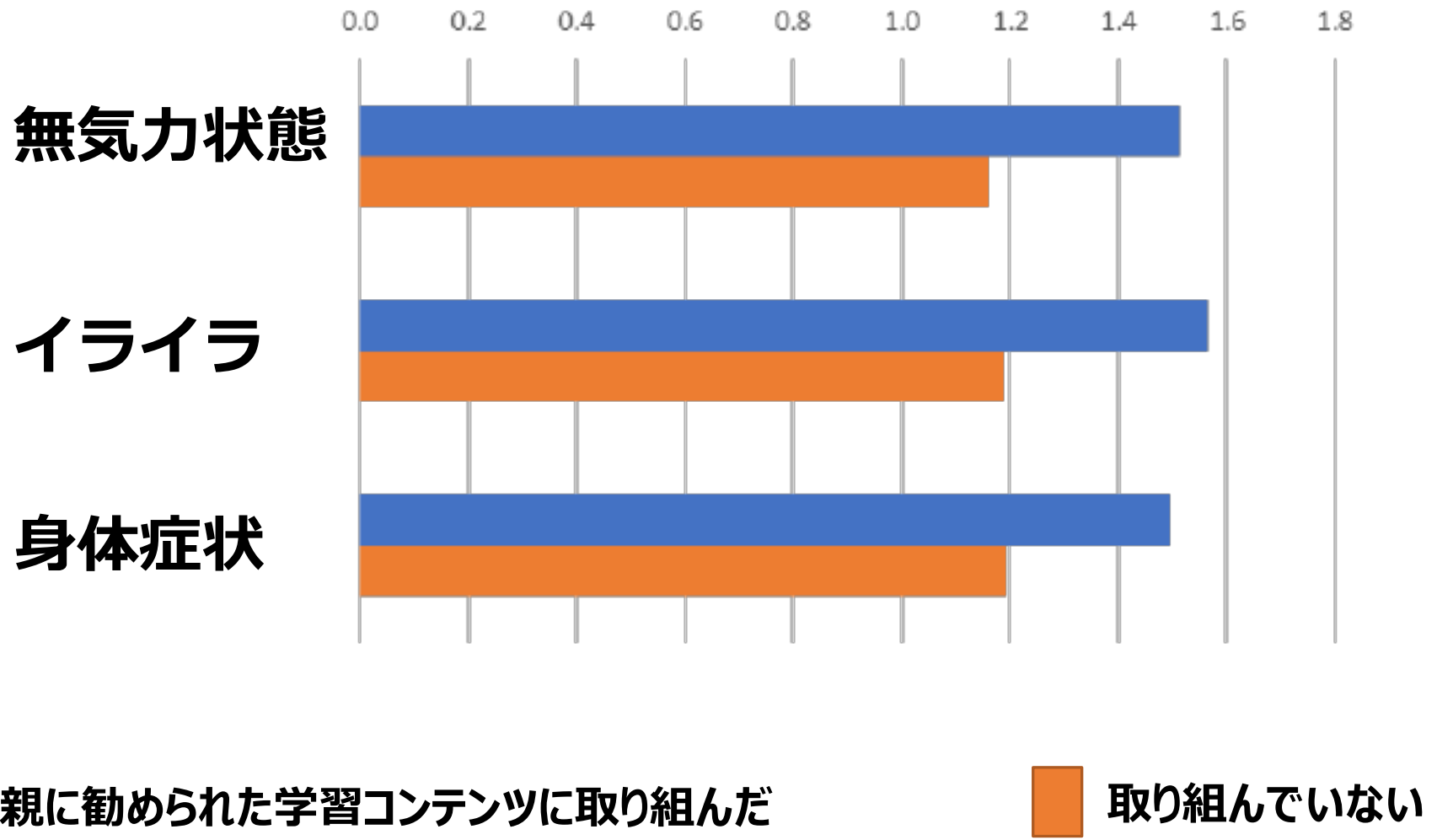
「差」の赤字は、 $p<.001$

【休校中】親に勧められた学習コンテンツに取り組んだかどうかと学習時間の関係

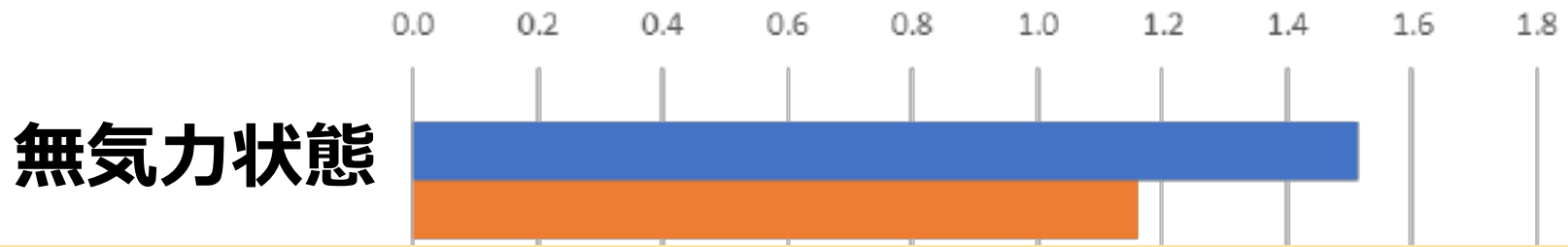


親が教材をすすめても、
学習時間が長くなるわけではなさそう

休校中の親の関わりと子のストレス反応



休校中の親の関わりと子のストレス反応

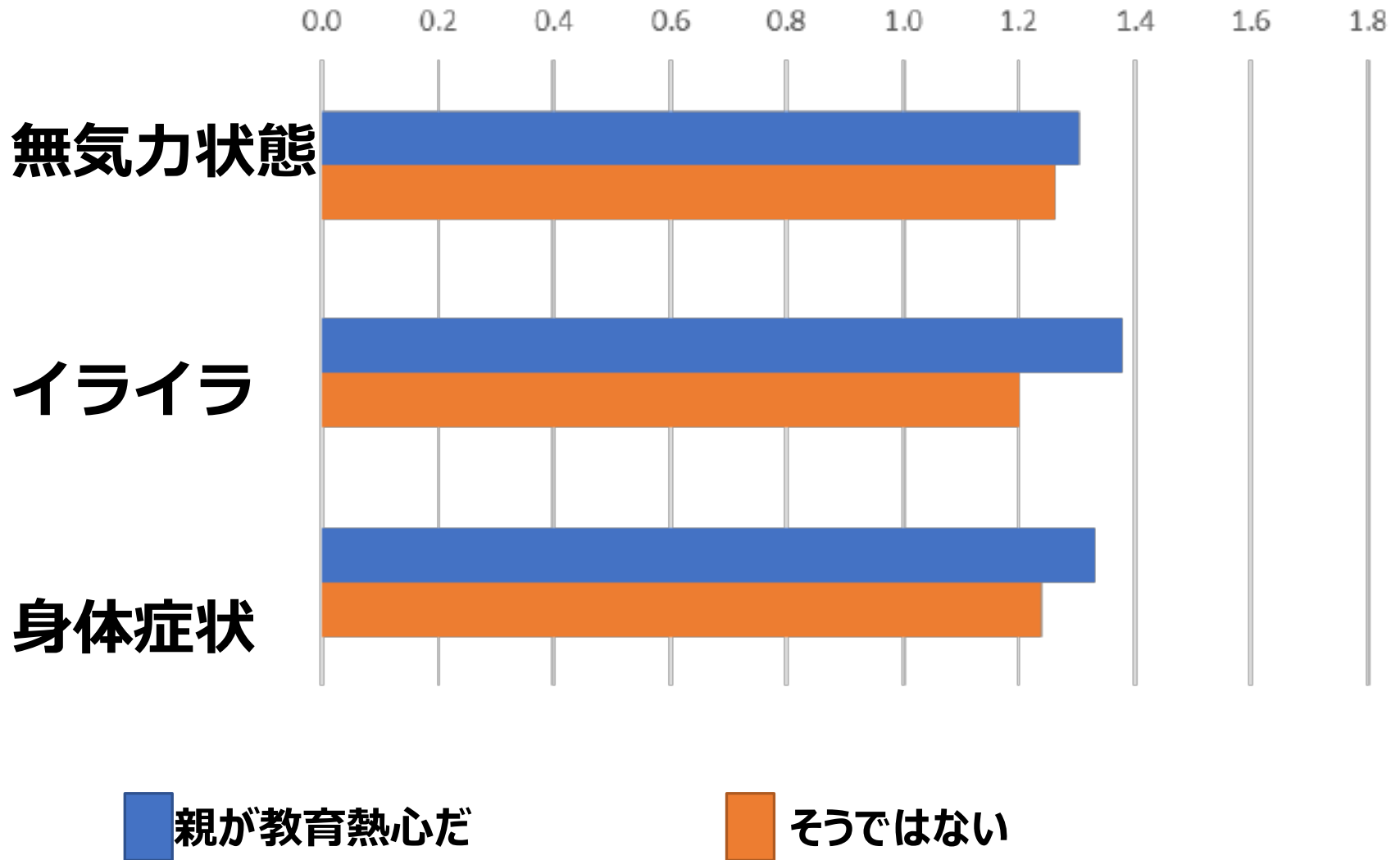


休校になってから、
子の学習に対して関与しようとしても
かえってストレスに！？

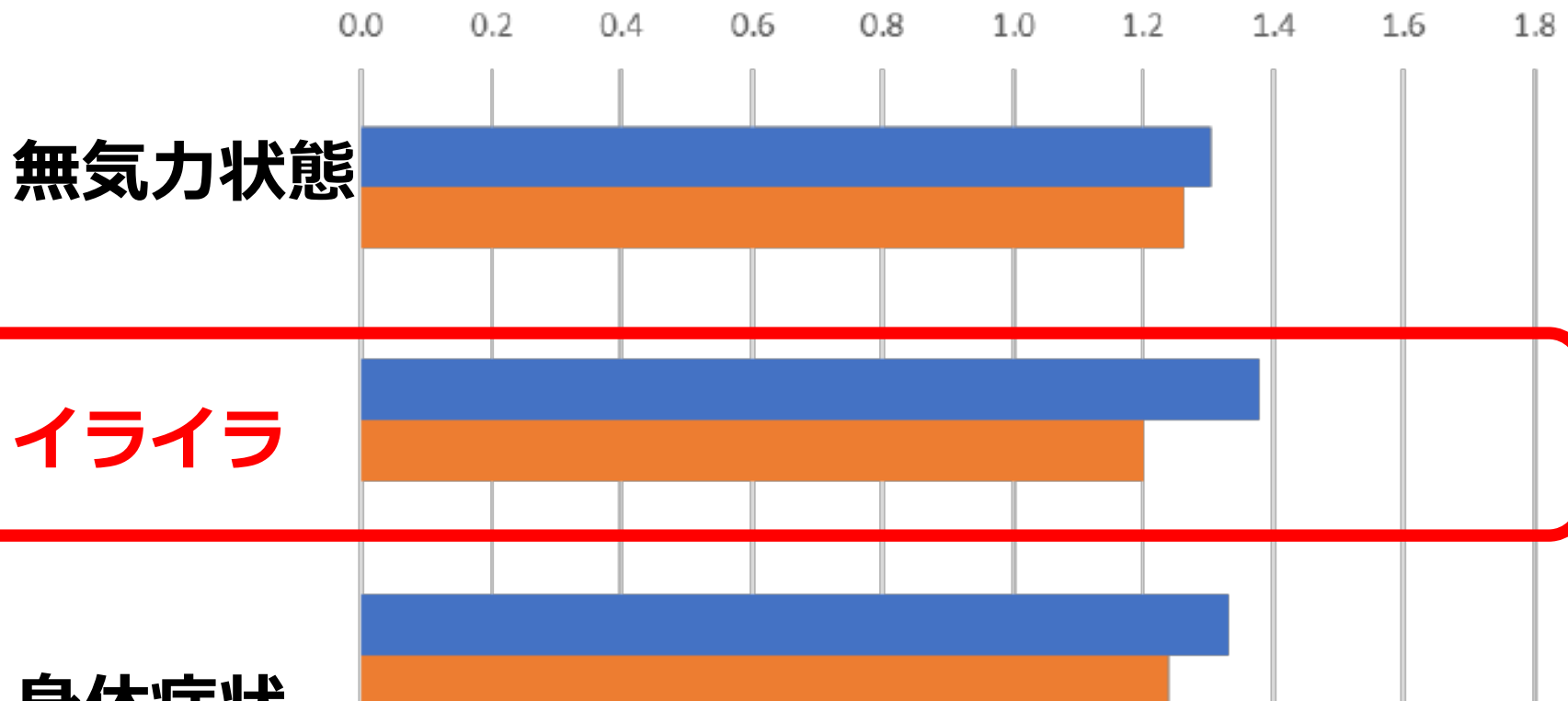
■ 親に勧められた学習コンテンツに取り組んだ

■ 取り組んでいない

普段の親の関わりと子のストレス反応



普段の親の関わりと子のストレス反応



普段からの教育熱心さは、学習時間の確保にはつながるけれど、
「イライラ」も高めてしまうかも！？

学びを支えるアイデア～家庭編～

子が高校生であっても、学びを支えるための「親の関わり」が果たす役割は大きい

普段からの関わりが重要

だが、それは「普段から関わっていればよい」ということではなく、**関わりの「質」が問題**

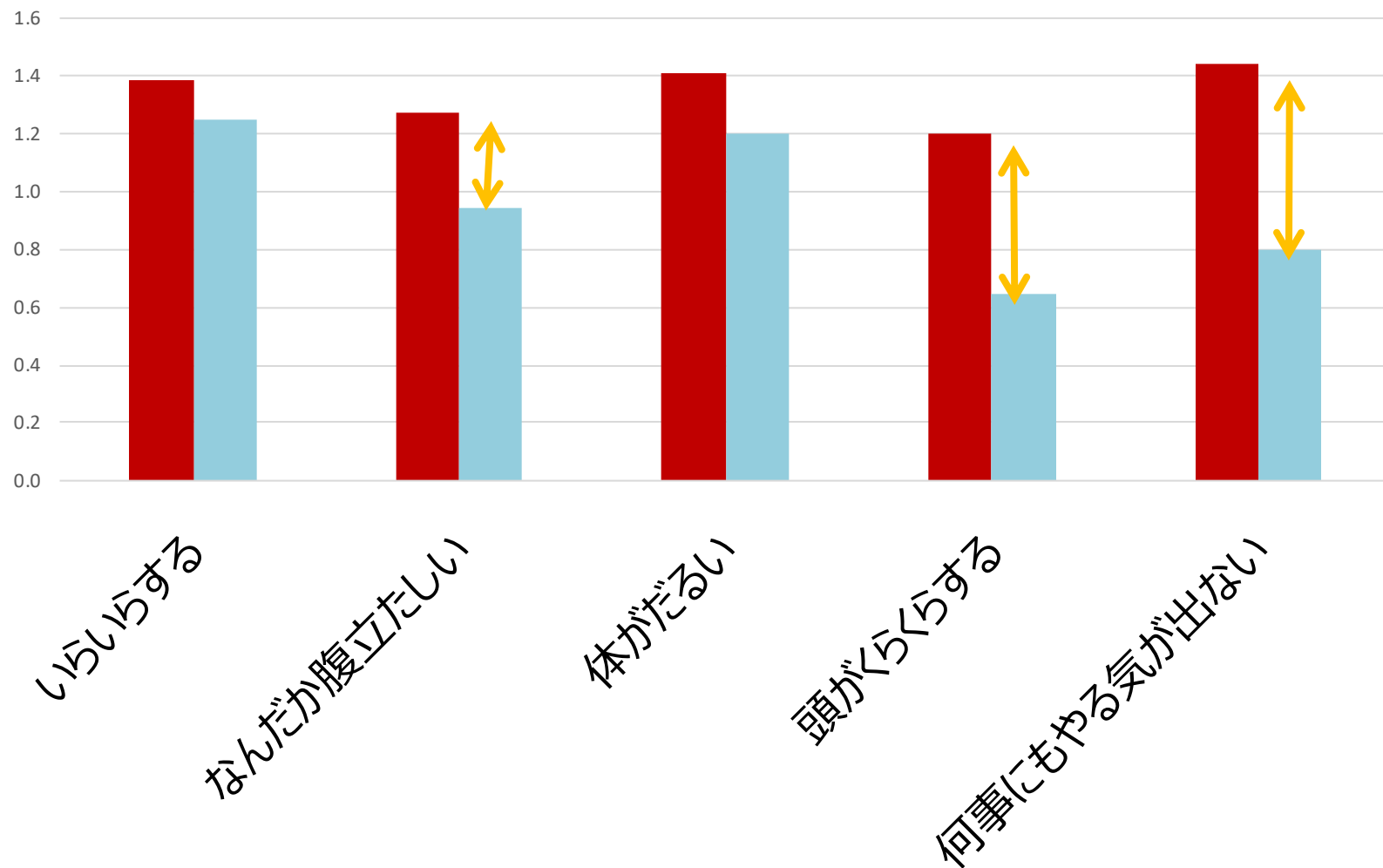
管理よりも**ケア**を！

直接的に「勉強させる」ための働きかけではなく、学習や生活を「気にかける」こと



学習に向かわせるための環境整備や、学習習慣を支えることの延長
例：SNSや動画だけに時間を費やさないような工夫、生活リズムを崩さないための声かけなど

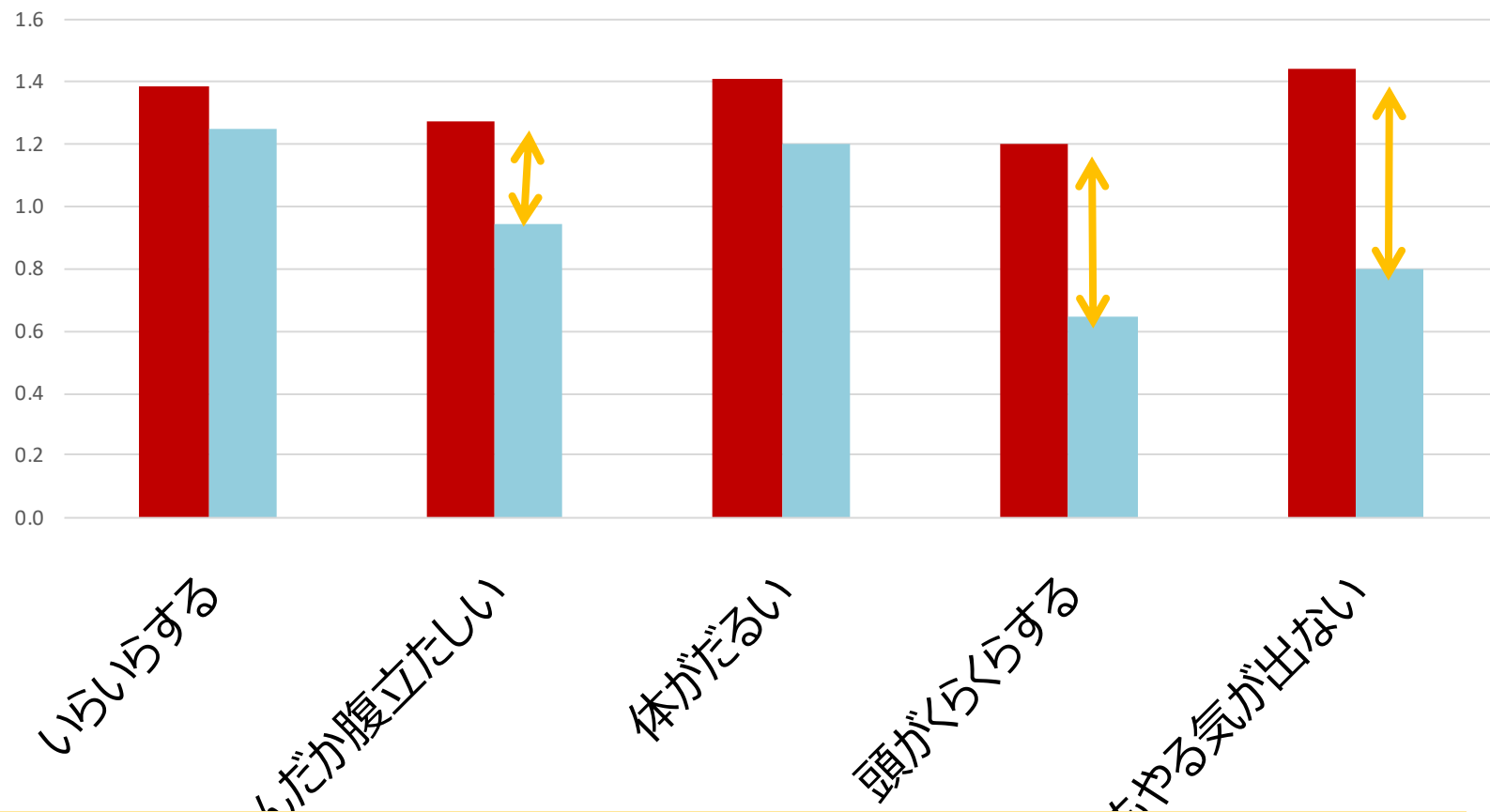
休校中のストレス状態



■ 今回調査 ■ 公開論文 (中学生)

岡安・嶋田・坂野(1992) 中学生を対象に収集したデータ。論文に合わせて再集計
(ただし中学生であることに留意されたい：解釈は限定的であるべき)

休校中のストレス状態

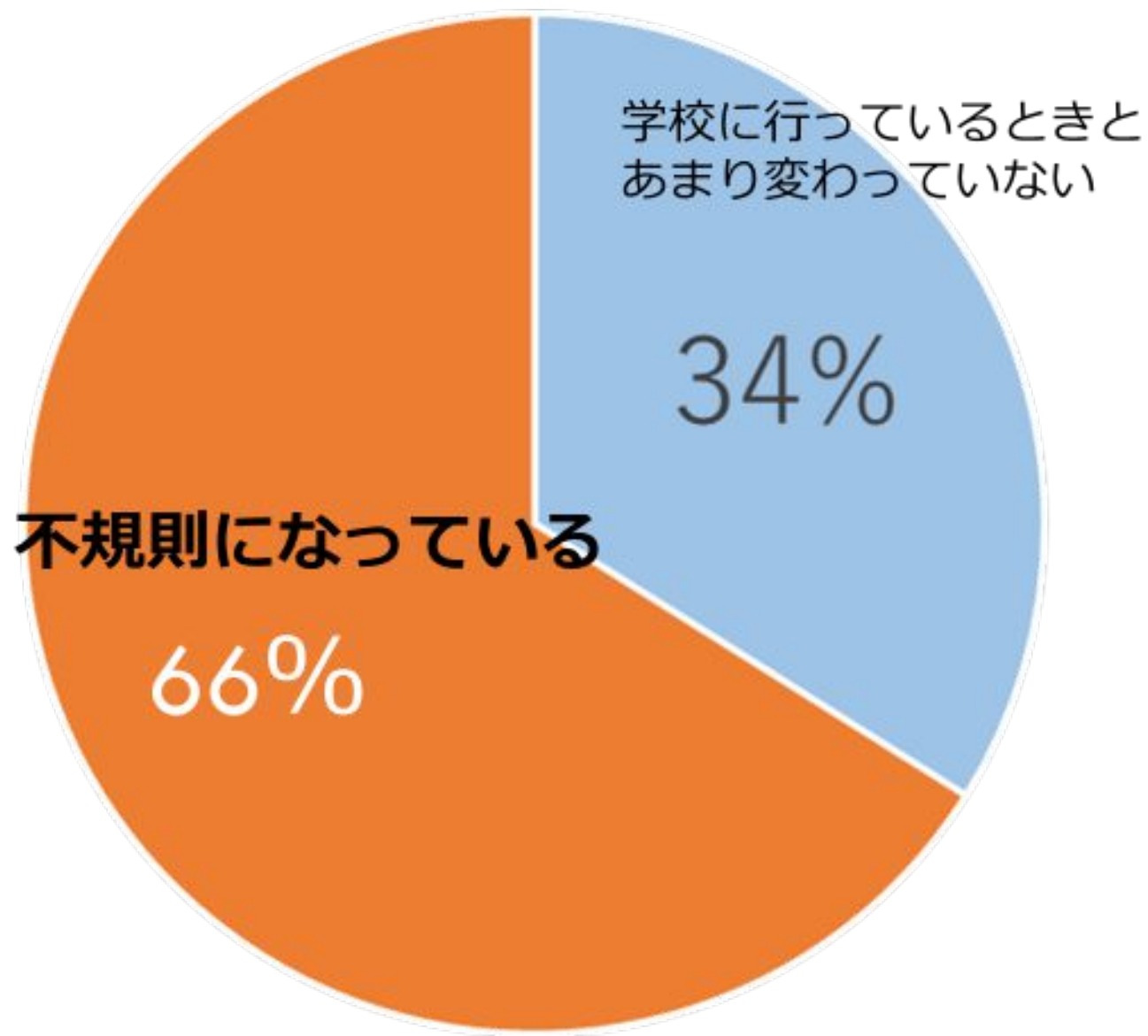


そもそも休校によって、
普段よりもストレスを感じている

ストレス反応と関連する要因

- **生活リズムの乱れ**
- 「支え」「つながり」のなさ

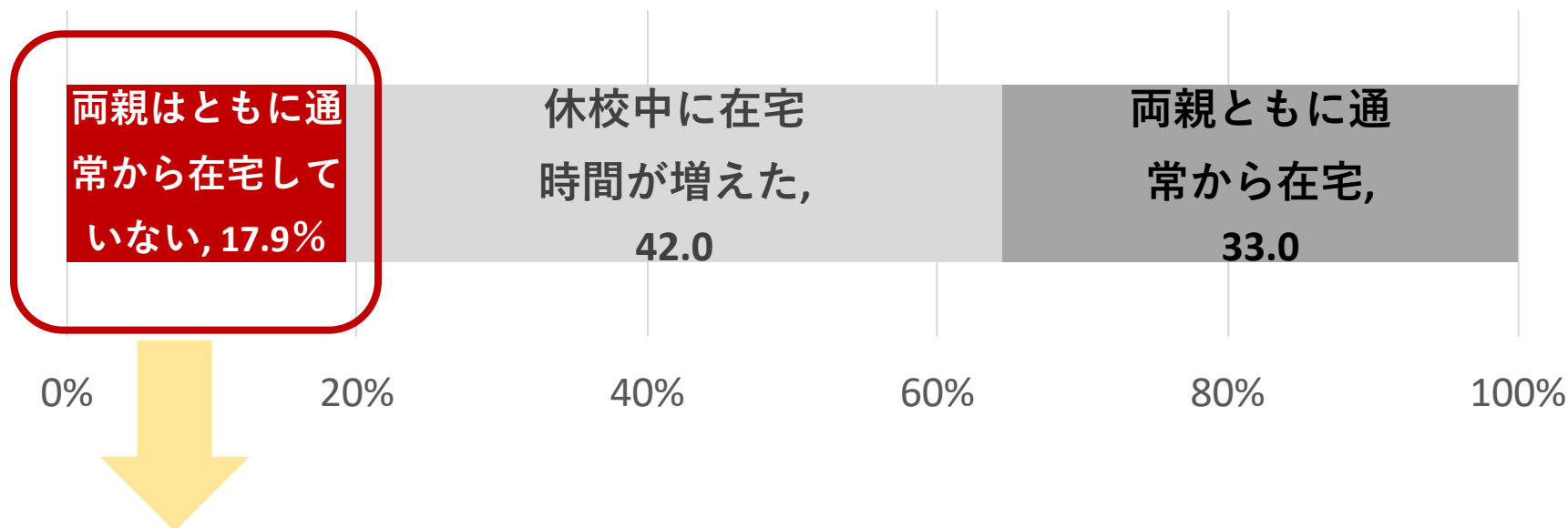
生活リズム



ストレス反応と関連する要因

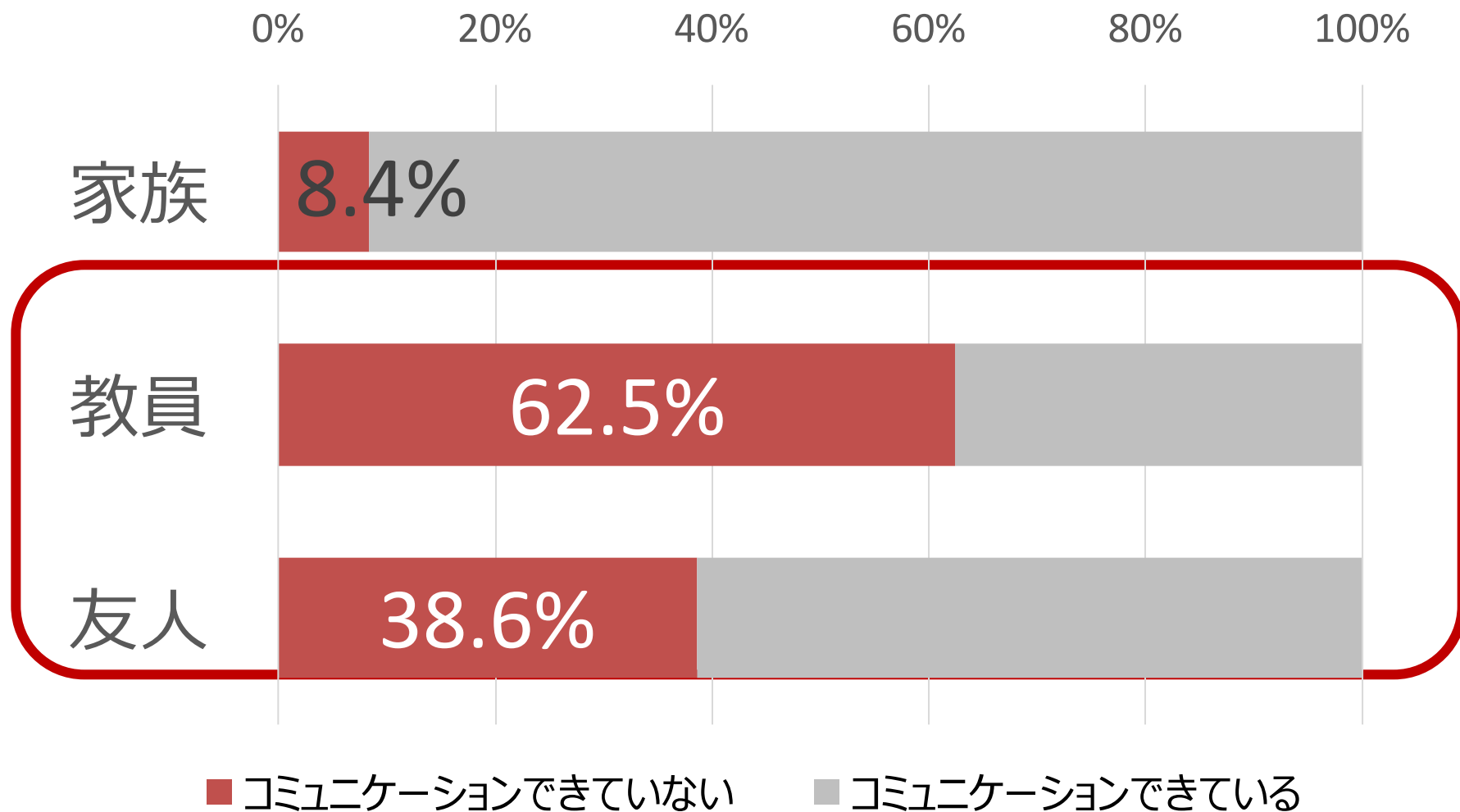
- 生活リズムの乱れ
- 「支え」「つながり」のなさ

両親の状況

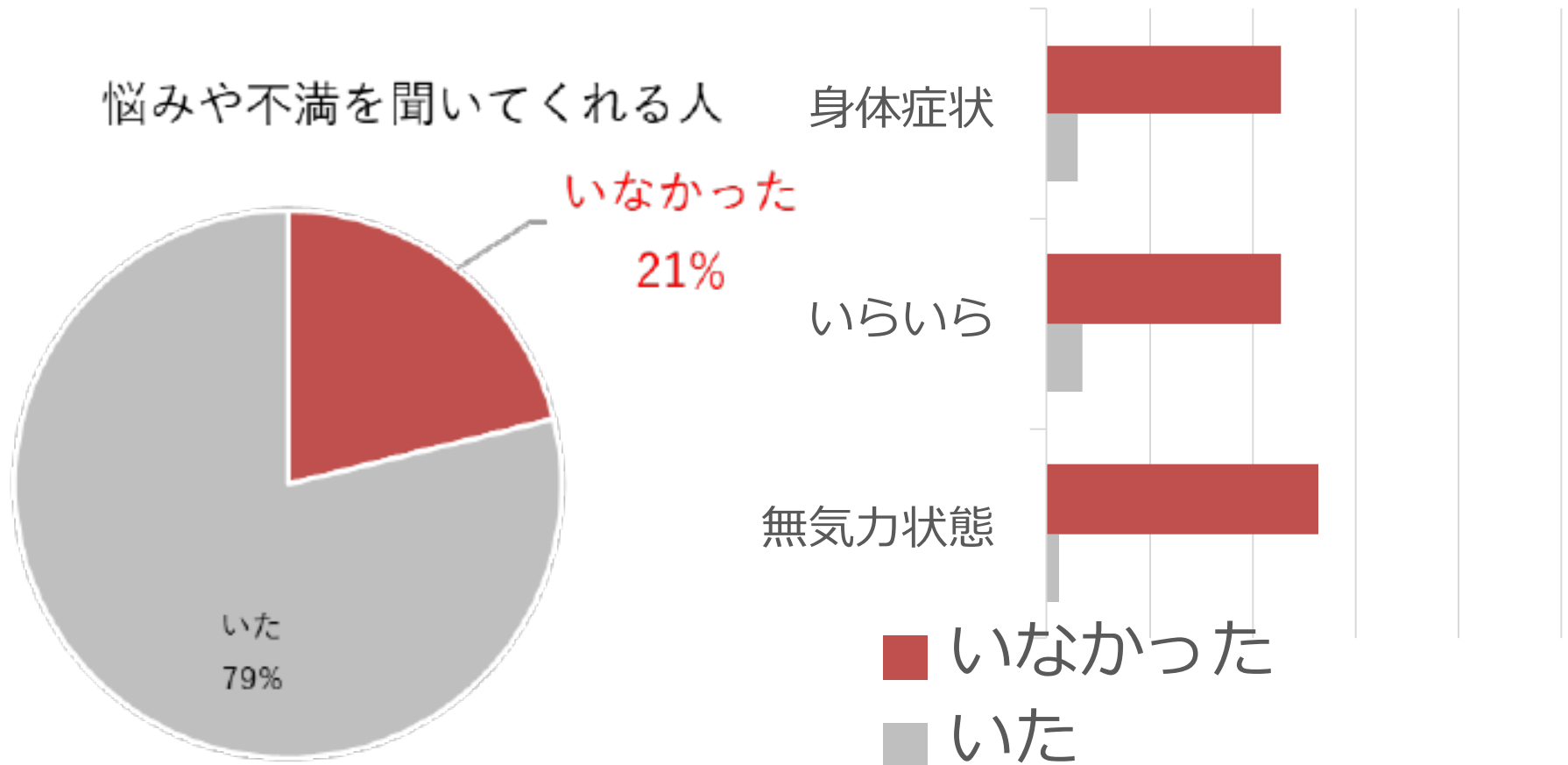


- 両親ともに通常から在宅していない場合
 - **生活面を気にかけていない**と感じている人 30%（両親が在宅している場合は1割強）
 - **体調面を気にかけていない**と感じている人 35%（両親が在宅している場合は2割）

両親以外とのコミュニケーション



誰にも悩みや不満を話せない人がいる・・・



悩みや不満を聞いてくれる人がいない場合、
ストレス反応が強く起きている

こうした結果をふまえると・・・

- 学習や生活は、人との「つながり」に支えられている
- 家庭でのサポートは重要、でも家庭だけに頼ることはできない
- 家族とつながれない、友人とも教員ともつながれない、という層が一定数いる

学校や家庭に限らず、社会の幅広いアクターや領域で「学びを支えていく」ことが必要なのではないか？

第2部へ！



第2部 対談

対話がつむぐ「そのとき」と「これから」



登壇者紹介



今村久美

認定NPO法人カタリバ 代表理事

加賀大資

認定NPO法人カタリバ ディレクター

佐々木宏

都立日野台高等学校 教諭

片野優

N高等学校 3年生

中原 淳

立教大学 教授



対談の流れ

□登壇者より

自己紹介

「そのとき」何を思い、どう動いたか

□PART 1.「そのとき」を振り返る

対談のテーマは、3つの選択肢から
皆さんに選んでいただきます！

□PART 2.「これから」を考える

「これから」の学びを支えるために
大事にしたいことは？



登壇者より

事例紹介「その時なにが起こったか」

- ①一斉休校の通達を受けて、まず何を思ったのか？
- ②学びを支えるために（学び続けるために）どう動いたのか？



PART 1. トークテーマ候補

- ① 「学校がとまった」とき、誰にとってのどんな学びがとまってしまったのか？誰が学びを止めないでいられたのか？
- ② 休校で見えてきた「学校」の役割、「学校」の外での学びの可能性とは？
- ③ 非常事態に対応できる学校、組織、人とは？

「投票」をお願いいたします！



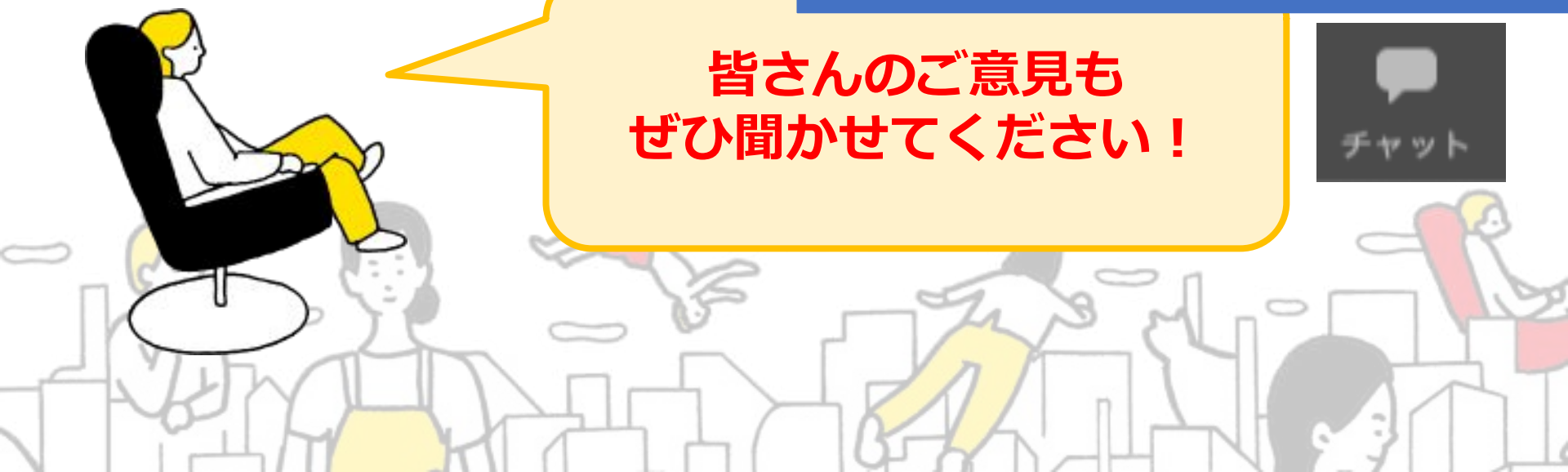
学びの「これから」を展望する

「これから」の学びを支えるために大事にしたいことを

ワンワードで書いてください！

「チャット」にご記入ください

**皆様のご意見も
ぜひ聞かせてください！**



アンケートにご協力をお願いいたします



<https://forms.gle/xgBxxtYBsh39NXgh7>



***引用いただく際は下記の要領で出所を明示してください。**

記載例

高崎美佐・村松灯・田中智輝・中原淳（2020）「立教大学経営学部中原淳研究室 そのとき学びに何が起こったか：高校生の学習時間に焦点をあててー新型コロナ感染拡大による学習環境の変化に関する調査報告会 当日配布資料」

http://www.nakahara-lab.net/blog/wp-content/uploads/2020/06/online_manabitomeruna2020-1.pdf

